

## 省エネに関する最近の国際的取り組み

近年相次いで省エネに係る国際的な枠組みが生まれている。中国やインドなどのアジアのエネルギー消費大国が主なターゲットとなっており、従来は国内政策であった省エネルギーが国際的な課題として議論されている点が新しい傾向である。

これらの国の急速な経済成長と共にエネルギー需要の旺盛な伸びが世界のエネルギー市場を圧迫していることが背景にある。いわゆる「エネルギー安全保障」の観点から、供給の安定確保の重要性が顕在化する一方で、効率的なエネルギー利用による需要面の管理の必要性が認識された。中国政府は既に第 11 次五ヵ年計画で省エネ目標を掲げており、国内政策として省エネルギー政策が最重要課題の 1 つとされている。

省エネルギーが国際的な取り組みとして注目されている背景としては「地球温暖化問題」が挙げられる。国連の場では先進国対途上国といった対立的な構図が続き、今後地球温暖化ガス排出量の増大が見込まれる途上国が温暖化対策に参加する環境が整わない状態が続いている。以下で紹介する各種の新しい国際的な枠組みは、温暖化ガスの排出量の削減に結びつく省エネルギーの取り組みを前面に掲げている。先進国から途上国に向けた技術協力を通じて削減ポテンシャルの大きな分野から効率的で経済的な省エネを促進し、結果的に温室効果ガスが削減される点で国連の議論と補完的な役割を果たす動きとして注目されている。本稿ではこのような国際的な動向の背景とともに、主要な国際枠組みを簡単に紹介する。